

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0170503858		
法人名	株式会社 フロイデブランニング		
事業所名	グループホーム けあふる白樺		
所在地	札幌市南区藤野4条2丁目3番18号		
自己評価作成日	平成22年11月19日	評価結果市町村受理日	平成23年3月30日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当事業所は、利用者様の安全で快適な暮らしを考え、ホーム内はバリアフリーになっているほか、全個室、全共有部分がオール床暖房になっており、安全で常に快適な温度が保たれています。また、外には畑や中庭もあるため、春から夏にかけては利用者様と一緒に花を植えたり、畑作りをすることが出来ます。また、地域密着型サービスとして、利用者様と地域の行事に参加したり、当事業所の行事にお誘いして交流を深めていることや、毎月発行しているホーム便りを町内の回覧板で回していただく等、地域の方にグループホームをより身近に感じていただけるような取り組みにも力を入れています。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://system.kaigoioho-hokkaido.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0170503858&SCD=320
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 ふるさとネットサービス
所在地	札幌市中央区北1条西5丁目3番地北1条ビル3階
訪問調査日	平成22年12月3日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

運営法人代表の、身体の不自由な高齢者が安全でゆったりと快適に暮らしを過ごして欲しいとの思いが、施設のバリアフリー化、建物内全ての床暖房、リビングと食堂分離、開放感ある天窓など施設構造に表出されています。さらに、ホーム理念の実践を目指す努力が、職員の利用者に対する丁寧ながら親しみのある言葉かけや思いやりのあるケアサービスとなって、双方の信頼関係が構築され、ホーム全体が和やかで楽しそうな雰囲気になっています。利用者は日常的な散歩や買い物、庭でのバーベキューや外気浴を楽しみ、果物狩りや冬期の雪祭り見学、初詣等と戸外に出る機会が多く、変化のある暮らしを楽しんでいます。ホームと地域との交流も年々深まり、利用者は輪投げ大会、植樹、運動会など町内会行事に参加し、ホーム主催の夏祭りやクリスマス会などには、周辺住民の方々や子供達も訪れて楽しんでおり、地域との一体感が感じられます。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:28)		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I. 理念に基づく運営						
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	尊厳・自立・自由の理念のもとに、一人ひとりの人格を尊重し、その人らしい生活が送れるようプランを考え、実践している。	職員は、ホーム理念にもとづくケアサービス実践の重要性を共有しており、利用者一人ひとりの状態に合わせて、ゆったりと安心して過ごせるよう支援しています。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内の輪投げ大会や植樹の手伝い、配食サービスの試食会、町内の運動会見学等の町内行事に参加させて頂いたり、グループホームの行事にもお誘いし交流の機会を図っている。	町内の各種行事に、利用者と職員が積極的に参加、協力しています。夏祭りなどホーム主催の催しには、周辺住民の方々や子供達も参加するなど、地域との交流が年々深まっています。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議で、認知症の人の理解や支援の方法について質問がありよく話し合っている。また介護について等、いつでも相談して下さいと伝え、地域貢献に繋がるよう声を掛けている。			
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、町内の方から災害時等のもしもの時には会館を使っても良いと言って下さったり、ホームの通信を回覧板で回してくれたりと、事業所への理解や協力が深まっている。	昨年は諸事情により定期的開催が十分ではありませんでしたが、今年より2ヵ月毎に開催しています。会議では活発な意見交換を行い、ホーム運営に反映させています。	会議で、ホームと地域との一体となった勉強会の提案があり、地域との交流強化の面からも実現に期待します。この勉強会を通して、知見者の会議参加者を拡大し、より多くの意見や提案等をホーム運営に活かすよう期待します。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村担当者と電話等でよく話し合い、質の向上に努めている。	法人代表は、随時行政窓口を訪問して担当者で面談し、管理者も管理者会議で担当者との接触や、必要に応じて訪問や電話など連携を図り、サービス向上に努めています。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	申し送りやケアカンファ等で、身体拘束についての話は何度もしており、どのような行為が身体拘束になるのか、全職員が正しく理解出来るよう努めている。そして、身体拘束をしなくても良いケアを日々考え話し合っている。	職員は、身体拘束をしないケアの意義と必要性を勉強会やマニュアル等で理解し、日常業務で実践しています。玄関の施錠も夜間のみで、ユニット入口には施錠がありません。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされないよう注意を払い、防止に努めている	以前虐待についての講習を事業所から数名受けており、受けられなかった職員にも、後日、報告書や資料等を見て理解してもらっている。そして虐待が見過ごされないよう注意を払い防止に努めている。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	運営推進会議でも成年後見制度等の話は出ており、会議に参加された包括支援センターの方からも、講習会やってみませんかとお話を頂いているため、今後実現に向けて町内の方々も参加できるような講習会の機会を作りたい。			
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は、利用者様や御家族とよく話し合い、説明の時間を多く持ち、理解・納得をしていただいている。			
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	御家族の来訪時等には、意見や要望を聞いたり、ケアプランの発送と併せて御家族の皆様からの意見要望を書いて頂く紙を同封し、頂いた意見要望は必ず職員間で話し合い対応している。	家族のホーム来訪時や介護計画更新時、電話等で意見や要望を把握し、意見等を頂いた時は、朝夕の申し送りや毎週末のケアカンファレンスで協議し、運営に活かしています。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日々の申し送りや、カンファレンス等で職員同士話し合う機会を設け、意見や提案は管理者を通して代表者に情報を話し、反映させていくよう努めている。	管理者は、日常業務の中で職員からの要望や提案等を把握し、法人代表と話し合っています。また、時には法人代表と職員との個人面談によって、要望等を聞く機会もあります。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員個々の情報は管理者がしっかりと把握し、代表者への報告も行っている。代表者と管理者がよく話し合うことで、各自が向上心を持って働けるような職場環境や、条件の整備を行っている。			
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修等も、研修費や交通費等も職員が負担にならない様サポートしており、積極的に研修を受ける機会を確保している。また、資格を取る際は、シフトを調整し、働きながら資格取得が出来るよう配慮している。			
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者会議等で交流する機会があり、情報交換をしているが、勉強会や相互訪問等の活動は、今年度は出来ていない。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価			外部評価		
			実施状況			次のステップに向けて期待したい内容		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援								
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用する前に、ホームの見学を通して雰囲気をつかんで頂いたり、生活していく上で疑問になることや、不安に思うことを聞き、安心して生活して頂けるよう説明している。					
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ホーム内の雰囲気を見学して頂き、御家族の不安や疑問が取り除けるよう説明している。また、グループホームとして、出来ることと出来ないことをしっかりと説明している。					
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者様や御家族が、どのような介護サービスや安定した生活を希望しているのかを良く話し合い、柔軟な対応が出来るよう努めている。					
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は一人一人の利用者様にしっかりと関わり、出来る事はやって頂き出来ない部分は一緒に行う支援をしている。また人生の先輩として色々な事を教わり、支えあって生活している。					
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	御家族にも行事等に参加して頂き、一緒に楽しんだり、職員からも御家族に日々の生活でのケアの提案をさせて頂いたり、御家族の協力のもと、利用者様を支えていく関係を築いている。					
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	御家族とのコミュニケーションが取れなくなり疎遠にならない様に、近況報告や毎月の行事等の案内を送り、気軽にホームに来て頂けるよう努めている。	家族や知人が気軽にホームを訪れて頂くよう、ホーム行事の案内や来訪時には快く対応しています。利用者の希望があれば、馴染みの場所へも行けるよう支援しています。				
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	毎日全員で行っている体操や、その他のレクリエーション等で、利用者様同士が交流できる場を提供し、職員も一緒に行い、利用者様同士の関係を支援している。					

自己評価	外部評価	項目	自己評価			外部評価			
			実施状況			実施状況			次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ホーム利用が終了した方や、その家族から相談があった場合には、出来る限りの対応をするよう努めている。						
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント									
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人一人の希望や意向を聞き把握に努め、困難な場合は日々の生活からしっかりとアセスメントし、ケアカンファ等で話し合い、検討している。					日常のケアサービスから、思いや意向を把握していますが、困難な場合は、職員間の相談やケアカンファレンスで検討しています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前情報や、御家族との話の中で、利用者様の生活歴を聞き把握に努めている。						
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の生活の中から職員同士で情報交換し、総合的に把握するよう努めている。						
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者様の担当職員が中心となり、何が課題であるのかを明確にし、それに対し、可能な限り本人や御家族、ドクター等の意見やアイデアも反映し現状に即した介護計画を作成している。					利用者一人ひとりの担当職員が毎月、計画に沿ったモニタリングを実施し、週末のケアカンファレンスを通して全職員の共有とし、利用者の現状に即した介護計画となるよう努めています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子は個別に記録し、朝夕の申し送りや情報の共有をしている。また連絡ノートや気づきノートを使い実践や介護計画の見直しに活かしている。						
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者様や御家族の要望に応じて、通院介助や散歩、買い物等の支援を行っている。						
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のボランティアの方に来て頂き、お話をしたり、歌や楽器演奏を見せて頂いたり、利用者様が楽しめるような支援を地域の方とも協力している。						
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	24時間対応の医療機関との連携、週一回の往診医師や訪問看護などを実施している。					毎週、24時間対応の医療機関による訪問診療と訪問看護があります。希望があれば他の医療機関受診も自由で、家族が付き添いできない場合は、職員が対応しています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者様の情報や新たな気付きは、週一回来て頂いている訪問看護師に相談し、助言して頂いている。そして、それを往診医師にも伝え利用者様の支援に繋げている。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	現時点では、入院している利用者様はいないが、そうした場合に備えて、毎月の通院介助の際は、しっかりと情報交換し、相談できる関係を作るように努めている。			
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合の指針を入居時に本人・家族に説明し、同意を得ている。	ホーム入居時に重度化の指針を説明し、家族からの同意書を頂いています。重度化になった時は、24時間対応の医療機関と緊密な連携を図りながら対処しています。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	熱発や転倒等、急変や事故発生時の備えとして、マニュアルを作成しており、いつでも見える位置に掲示している。			
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回避難訓練を行い、その他にも、職員同士で手順を確認したりする機会を作っている。また、災害時は町内の会館を避難場所として利用して下さいと町内会長様も言っておっしゃっている。	夜間想定を含めて年2回の避難訓練を実施し、非常食や備品も備えています。運営推進会議でも災害時の協力要請を行い、訓練時に町内会役員の方々が参加しています。	ホームは、町内会との連携、避難訓練や備品用意など、十分な災害対策を講じています。今後は、災害時に協力を頂く地域住民の方々の役割分担の検討や、火災以外の想定される災害の避難訓練の実施を期待します。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉かけは、基本的には敬語で丁寧に対応し、誇りやプライバシーを損ねないよう対応している。	運営理念に従って、ケアサービスの際も誇りやプライバシーを損ねないよう配慮しています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	一人一人の性格や趣向、レベルに合わせた働きかけをし、自己決定力を引き出せるように支援している。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	強制はせず、利用者様の気持ちやその時の状態を最優先して、一人一人のペースに合わせた支援をしている。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	2～3ヶ月に1度、訪問の理美容サービスを利用し、本人の希望を聞いて、身だしなみが整うよう支援している。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理は全般的に職員が行っているが、簡単な皮むきや殻むき等は手伝って頂く事がある。他に、配膳、下膳、洗い物、食材の買い物等手伝って下さる。	食材の買い物、食事準備と後片付けに利用者も手伝い、食事中は、職員も一緒に同じ物を食べながら、楽しそうな雰囲気です。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分摂取に拒否がある利用者様もいるが、上手く声掛けしたり時間をずらす等して、栄養や水分は確保出来ている。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアの支援は欠かさず行っており、義歯を使用されている方は、夕食後にポリドントに浸け、口腔内の清潔保持に努めている。			
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄の時間を決め、排泄介助を行っており、トイレ内ではお腹をマッサージして排尿や排便を促している。それによって、実際に排泄の失敗は減っている。	利用者一人ひとりの排泄状況をチェック表で把握し、一人ひとりに併せた排泄支援を行っているため、失禁回数が減少したケースもあります。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘気味の方にはドクターはもちろんご家族にも相談し、御家族から腸の動きが良くなる飲食物等を持ってきて頂いて、便秘予防に取り組んでいる。			
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	ある程度入浴日は決まっているが、利用者様本人から希望があった時や、入る時間などは、柔軟に対応できるようにしている。	入浴は、毎日の午前と午後を実施し、週2回以上を基本としています。希望によっては、遅番の勤務時間帯まで入浴が可能で、夕食後に入浴している利用者もいます。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間しっかり眠れるよう日中に利用者様の好きな活動を取り入れたり、夜間眠れない時はホットミルク等を提供し安心して眠れるよう支援している。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服薬の情報はしっかりと個人別に管理しいつでも見れる状態である。また薬の変更があった場合は記録に残し、申し送り等でも情報を共有している。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食器洗いや食器拭き、カレンダー制作等が張り合いや喜びに繋がっている方や、運動をして生き生きする方等様々で、個人に合った支援をしている。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩等は積極的に行っており、買い物等も本人の希望で出掛けられることも多い。また外出レクも、季節に合わせた行司を計画し、介助が必要な方も全員が参加して実施している。	日常的に散歩や買い物に出かけ、庭で外気浴や食事を楽しんでいます。外出行事も多く、花見、祭り見学、初詣などバラエティに富んでおり、利用者の気晴らしと体力維持に役立っています。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	外出時には、一人一人にお金を持ってもらい、好きなものを自ら選び、買うよう支援している。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話はいつでも掛けられる環境になっており、手紙は職員が預かったり、利用者様と一緒にポストに投函しに行くこともある。			
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	建物は オール床暖房で暖かいことや、天窓が付いており、日中はそこから自然の光が差し込み明るく過ごしやすい空間になっている。また、壁には利用者様と一緒に作った季節に合った飾りや、行事の時に撮った写真を飾り、居心地良く過ごせるよう配慮している。	利用者が安全にゆったりと過ごせるようバリアフリーや床暖房、居間と食堂分離、天窓など、構造的に配慮されています。浴室やトイレなども明るく清潔感があり、手作り作品や写真、鉢植えなど家族的雰囲気になるよう工夫されています。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間では建物の中央にトイレがあり、ホールと食堂を分ける事が出来るため自然と2つの空間が作れており好きな場所で過ごせるようにしている。			
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人や家族と相談して、以前から使っていた物を持ち込み、使っている方がほとんどで、それぞれに個性があり、利用者様本人にとって、居心地良く過ごせるような居室になっている。	居室は清潔で明るく、十分な広さが確保されています。利用者は、テレビや調度品など、好みのものを自由に持ち込んで住みやすい場にししながら暮らしています。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	通路には、歩行や車椅子の邪魔になるような物は置かないように配慮し、利用者様の行動範囲を狭めないように気をつけている。			